



天井板（右側）をはさみ、クリップとバネで揺れを吸収する（イメージ）

開発した同器具は天井板を挟み込み、クリップとバネで揺れを吸収する独自の設計。3方向の揺れを吸収するため、天井

天井板（右側）をはさみ、クリップとバネで揺れを吸収する（イメージ）

製品名は「アサヒセーフティコート－ライト MG」。表面処理など一部の開発項目が残っているため、当面は小規模のモニター施工を受注し、15年4月以降に販売する。

【横浜】アサヒサンコー（相模原市緑区、瀬山健一郎社長、042・762・3265）は、マグネシウム合金板により軽量化した天井落下防止器具を開発した。建物の壁と天井板の隙間に挟んで揺れを吸収する「エクスパンションジョイント」の一つで、地震時の揺れを3方向にわたって吸収する。マグネシウム合金板は、2013年11月に国土交通省の不燃材認定を取得した。今後高まる耐震化需要をとらえる。

マグネ合金板で軽量化 アサヒサンコー 地震の揺れ吸収

天井落下防止器具

たり30㍍以上の高速で铸造・圧延する独自技術を持つ権田金属工業（相模原市中央区）と共同で開発した。同社がアサヒサンコーに供給。アサヒサンコーは、13年11月に国交省より建築基準法に基づく不燃材認定を取得した。

これにより、比重がアルミニウムや鉄よりも軽く、かつ製造コスト上の競争力があるマグネシウム合金板を使い、燃えにくい製品として販売できる。

現在、主流のエクスパンションジョイントは、壁側に固定するため、天井板が壁に直角にぶつかる揺れと、壁に対し上下、左右に動く3方向の揺れをすべて吸収するのが難しい。平板部分に使うマグネシウム合金板は、1分当

板の破損や落下を防げる確率が高まるとしている。

アサヒサンコーは、耐震天井の普及を進める日本耐震天井施工協同組合に新たに加盟した。14年中には、評価を経て同組合のカタログに掲載されると見て、全国の内装業者にアピール。並行してアサヒサンコーが自治体や大学の大規模ホールなどのモニター施工例を増やす。

また、マグネシウム合金板だけでも建材として販売する。